

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	九州大学歯学部
教育プログラム・コース名	九州大学 特色ある医療支援歯学教育プログラム 口腔健康科学特論
対象者	歯学生5年次生
修業年限（期間）	1年
養成すべき人材像	・口腔から全身の健康を推進する口腔健康科学の理論と実践が理解・説明できる歯学生
修了要件・履修方法	修了要件： 講義を履修し、受講後に行う内容に即した課題試験に合格すること【九州大学歯学部必修、他参加校自由選択】 履修方法： 次項に記載する履修科目内容を履修させる。 <b>1単位・90分×8回の集中講義科目を新規に開講する</b> 。不合格者については予備実習中に試験結果をフィードバックするとともに、類似の課題を与えレポート形式での回答を求める。本実習開始前の予備実習期間内に課題が解決できるよう、課題レポート提出を反復させる。
履修科目等	<九州大学必修科目、他大学自由選択科目> 口腔健康科学特論（集中講義）（1単位・90分×8回）  各回の講義内容は以下の通り。 第1回：栄養の経口摂取と摂食行動、糖代謝、肥満の関連性 第2回：肥満の病態と微細慢性炎症の成立機序 第3回：肥満と耐糖能異常の関連性、メタボリックシンドローム成立機序 第4回：歯周炎症と肥満の病態の類似性 第5回：歯周炎症とインスリン抵抗性、心腎連関への影響 第6回：久山コホートの特徴とこれまでの成果 第7回：医学統計学実践 第8回：歯周炎症のアルツハイマー病への関わり
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	【新規性】 座学が終了し、臨床実習に入る時点でOSCEやCBTと並行して本特論を集中講義（臨床予備実習の期間）の形態で開講する。すなわち、 <b>従来のコアカリキュラムに対応した臨床実習履修の可否を問うOSCE、CBTに加え、高齢化社会対応型の口腔健康科学特論を実施することに新規性</b> がある。 【独創性】 九州大学歯学部・歯学府は「口腔の健康から全身の健康を推進する口腔健康科学」「組織の再生・再建研究」を重点プロジェクトに位置付け、独創性に富む世界的研究拠点形成を目指している。その達成に向け研究志向大学としての使命を自覚し、研究マインドを有する学部学生の醸成を念頭に置いた教育の展開を目指している。本カリキュラムはこの重点プロジェクトのうち、口腔健康科学に特化したものであり、臨床実習に向けて口腔健康科学の理論と実践を周知徹底させ、課題形式での演習を体験させることで座学と課題解決能力の鍛錬を予備実習期間中に行い、実践能力を養成するものである。コースの内容は九州大学歯学部が世界をリードする研究分野であり、これらの研究成果（エビデンス）に基づき実地問題として課題を設定し、学生の解決能力を養う。とりわけ個々の生活習慣病保有患者の病態に即したオーダーメイド医療の実践力養成、特定の患者集団の分子疫学的な病態解析に向けた実践力の養成に重点を置く。

指導体制	<p>教育プログラム統括：九州大学・西村英紀教授（歯周病学）  各回の講義担当：  第1回：九州大学・二ノ宮裕三教授、重村憲徳准教授（口腔生理学）  第2～5回：九州大学・西村英紀教授（歯周病学）  第6、7回：九州大学・山下喜久教授（口腔予防医学）  第8回：九州大学・中西博教授（薬理学）</p>						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	<p>コース修了者は卒後、臨床の場において、激増しつつある生活習慣病患者に遭遇した際に的確に病態把握が可能となるばかりでなく、口腔から全身の健康へ貢献できる歯科医療の実践が行える。また、歯科医師会における保健衛生部や行政畑において、口腔健康科学をベースとした疫学調査の企画と実践をリードできる人材となり得る。さらに、教育・研究機関において口腔健康科学研究をリードする歯科医学者としての基礎が養える。</p>						
受入開始時期	平成27年7月						
受入目標人数	対象者	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	計
	九州大学歯学生5年次生	0	53	53	53	53	212
	連携大学歯学生5～6年次生	0	10	10	10	10	40
							0
							0
	計	0	63	63	63	63	252